

2017年10月30日
農林水産政策研究所セミナー

モセス カレイシ氏の 発表へのコメント

:CARDの動向

国際農林水産業研究センター
社会科学領域
古家 淳



JIRCAS



- **ムエア灌漑地区の開発の歴史**
 - 1950年代から開始、灌漑公社1966年設立
 - ムエア地区のコメ生産量は全体の50%を占める。
 - 栽培品種は主として長粒種。
 - JICAのプロジェクト”Rice-MAPP”によりジャポニカ米が導入された。
- SRI
- 協同組合によるコメ流通

- Jomo Kenyatta大学でのSRI農法の改良
 - 苗齡:14日→21日
 - 移植間隔:25x25cm →30x15cm
 - 移植苗数:1本→2,3本
 - 施肥:堆肥→堆肥+化学肥料
 - 収穫:手作業→機械作業
 - 裏作に大豆を導入
- 効果
 - 常時湛水の必要なし→水争い減少、灌漑面積拡大
 - 雇用の拡大
 - 生産費の減少



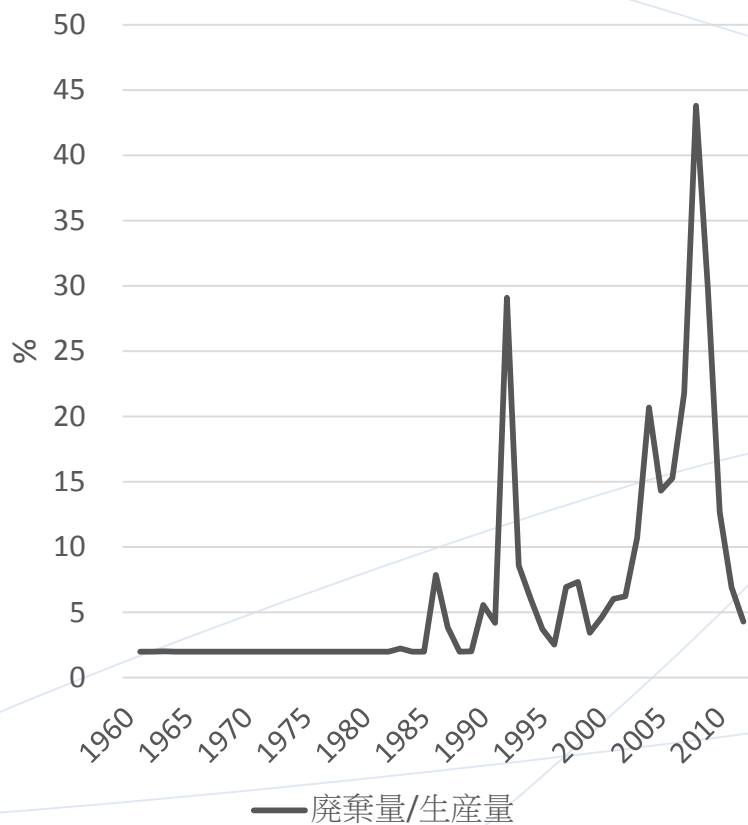
- ムエア協同組合での加入率は20%程度
- 非組合員は個別に取引を行う。
 - 収穫後すぐに取引業者に販売
 - 収穫後価格が上昇したときに取引業者に販売
 - 精米後に取引業者に販売
 - 小売業者に直接販売
- 指摘される問題点：
 - 収穫後の廃棄量が多い
 - 生産費が高い
 - 輸送費が高い
 - 国産米の価格は輸入米の価格より4割高い



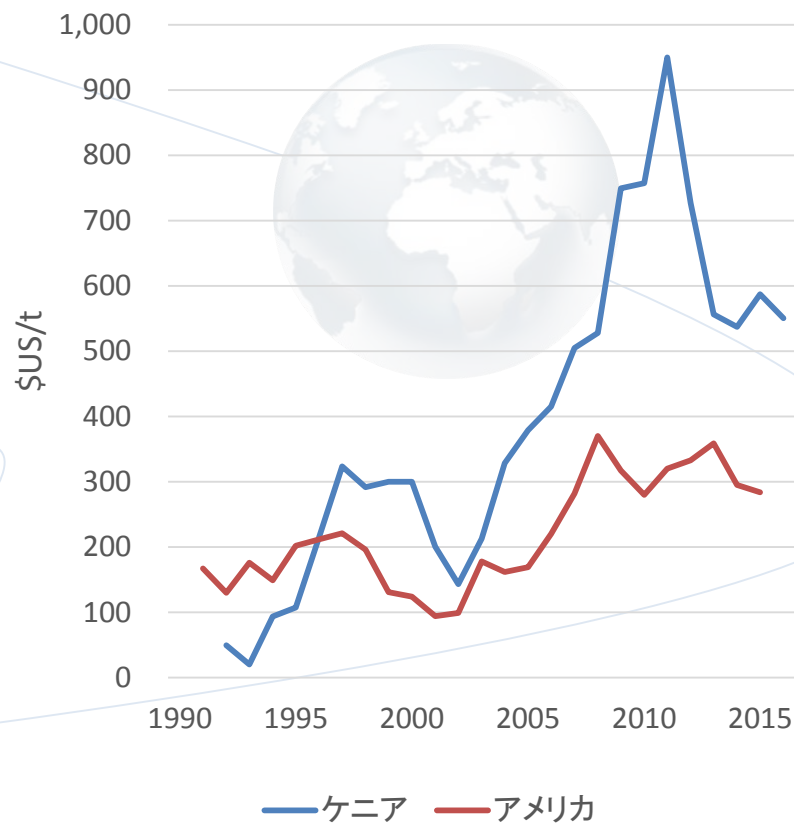
ケニアのコメ廃棄量と価格



コメ生産量に対する廃棄量



ケニアのコメ生産者価格

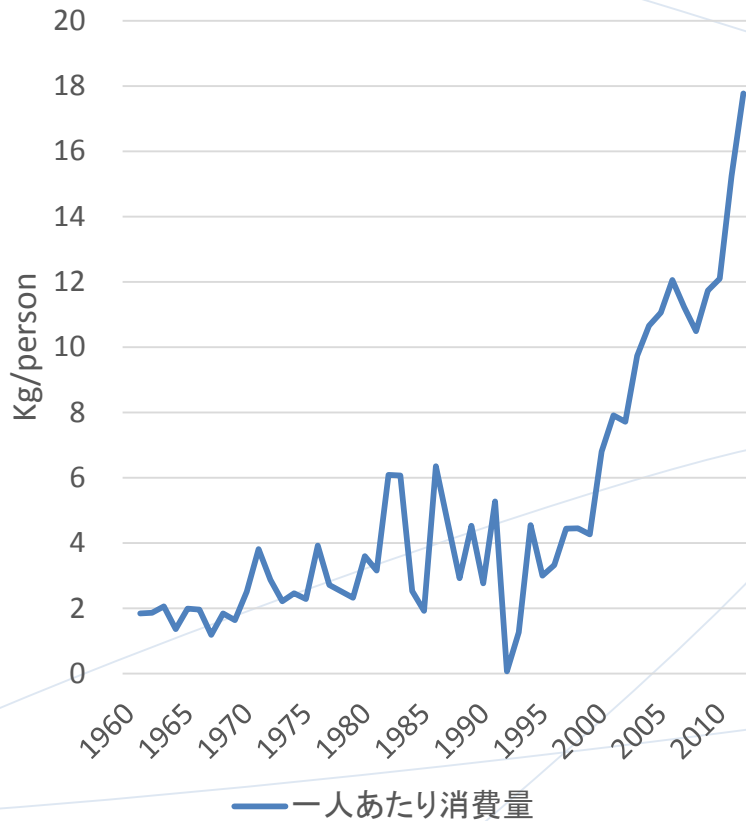


FAO-STATの値

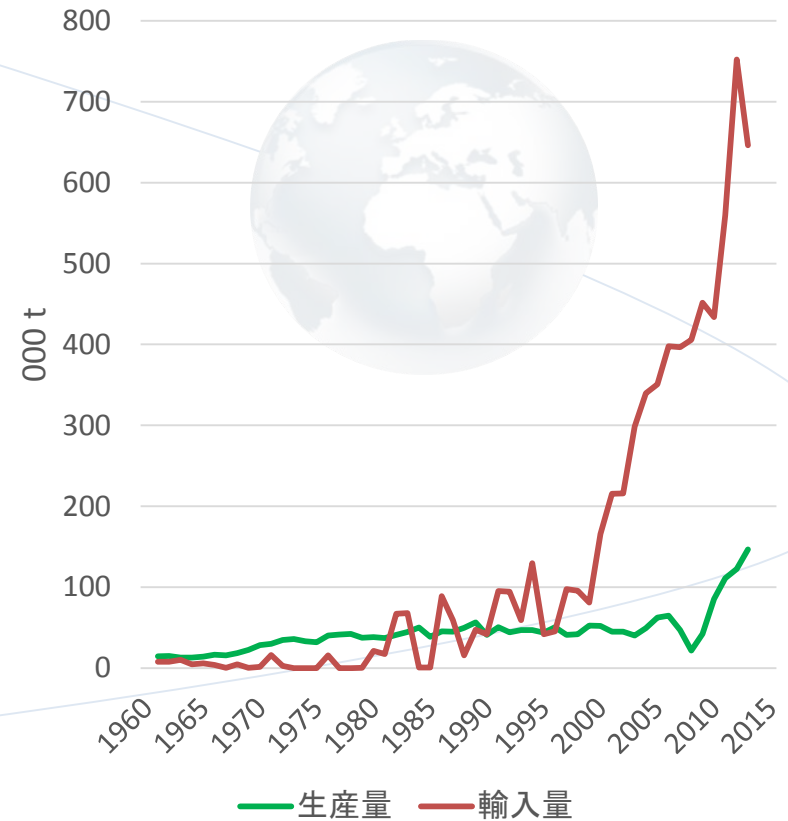
ケニアでのコメ需給の概況



ケニアのコメ消費量

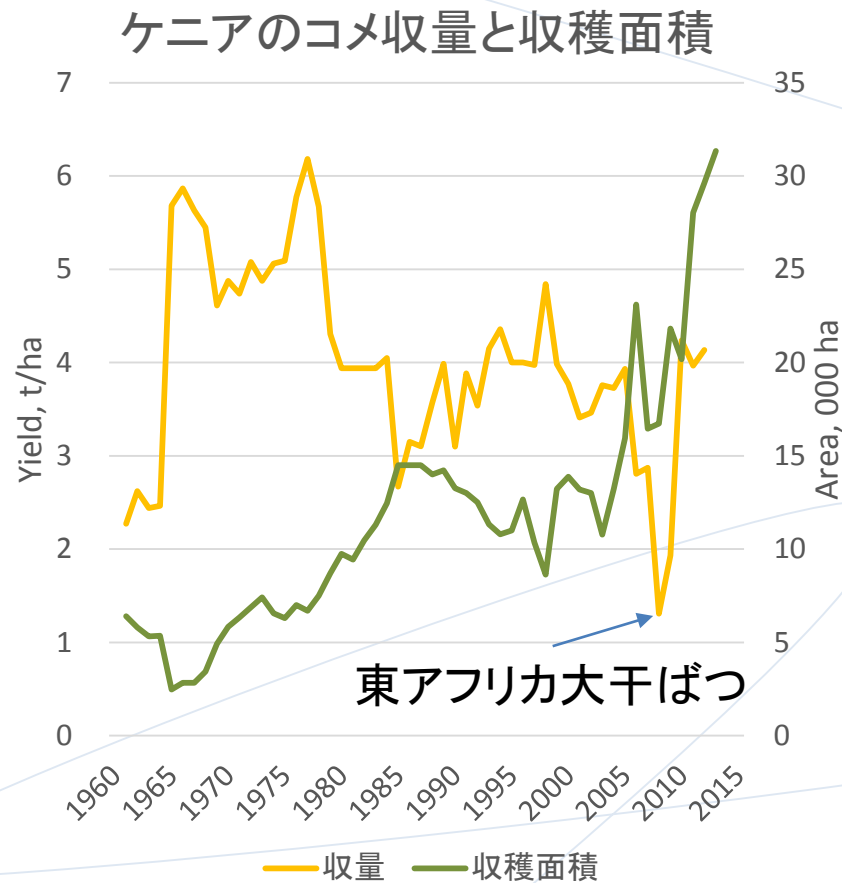


ケニアのコメ生産量と輸入量



FAO-STATの値

ケニアでのコメ需給の概況(つづき)



東アフリカ大干ばつ

FAO-STATの値

- コメの消費量が急増
- 輸入量が増加
- 生産量は増加しているが、消費の伸びに追いつかず。
- 収量は伸びず。
- 面積の増加で生産量が増加
- 面積の8割は灌漑水田
- ムエア地区、カノー地区

- CARD(アフリカ稲作振興のための共同体)
 - アフリカにおけるコメ生産拡大に向けた自助努力を支援するための戦略
 - 目標:SSAのコメ生産量を10年間で倍増させる
 - JICA, JIRCAS, AGRA, FARA等が参加
 - 対象国:ケニア、ガーナ、マダガスカル等23カ国

CARD: Coalition for African Rice Development
AGRA: Alliance for a Green Revolution in Africa
FARA: Forum for Agricultural Research in Africa

- CARDフェーズ2への検討

- ターゲット:

- 自給率向上、収量向上

- コンセプト:

- コメの品質向上:バリューチェーン(VC)強化
- 気候変動対策:生産安定化
- 生計向上:裏作導入による栄養改善
- 社会配慮:女性の労働負荷軽減

- 支援アプローチ:

- 政策支援:官民資金調達、連携促進
- 技術支援:栽培環境別支援、人材育成、VC、南南協力
- 広域展開:各国での成果の共有



- 灌漑地区でのコメの収量（生産性）は伸びていないのでは？
- SRIでは労働力を多く使用するので、生産費が高いのでは？
- ムエア地区での協同組合の加入率は低く、効果が小さいのでは？
- 気候風土に適合した稲育種を進められたい（SATREPSの課題）。



JIRCAS



ご清聴ありがとうございました